

2. 「持続可能な地域づくり」を進めましょう

本章では「持続可能な地域づくり」にむけて、4つのプロセスに分けて考えています。4つに分けることで、これまで取り組んでいない地域にも進んだ地域にも本ガイドブックの内容が参考にしやすいと考えたからです。今まで取り組んでいない地域はプロセスの初めのほうから参考としてください。また、地域の各主体が基本的にどのような働きをするのかを考えてもらうために、地域づくりへの関わり方を述べています。

地域づくりへの関わり方については、地方行政と住民・事業者、民間団体について基本的な役割を述べています。

(1)「持続可能な地域づくり」のプロセス

「持続可能な地域づくり」について、4つのプロセスに分けて考えてみます。

● プロセスは、取り組むうえでの目安のひとつです

- ➡ 取り組むにあたって、自分の地域がどの段階にあるかを確認する目安として活用してください
- ➡ 地域によって、どのプロセス（段階）から入ればよいかは変わってきます
- ➡ プロセス（段階）の展開は、ひとつとおりではありません。たとえば、一つのプロセス（段階）だけを参考とすることもできます

● プロセスは、4つの段階に分けて考えます

- ▶ 「きっかけ」：取組の入口となる段階
- ▶ 「はじめの一步」：取組を始める段階
- ▶ 「つぎの一步」：取組を継続的なものとする段階
- ▶ 「さらに…」：取組を見直し、さらに展開する段階

● 取組には各主体の協力・連携が重要です

- ➡ どのプロセス（段階）でも共通して重要なことは、取り組むにあたって地域の各主体が協力・連携して進めていくことです
- ➡ 取組のはじめの段階では、地方行政が中心となっていくこともありますが、ゆくゆくは、地域の各主体が中心となっていくことが望ましいかたちです

「持続可能な地域づくり」のプロセス

- 「持続可能な地域づくり」のプロセスを4つの段階で示しました。
 - 「地域づくり」の段階は様々なので、すべての地域が「きっかけ」から入るわけではありません。
 - 「地域づくり」を進めるには、各主体（地方行政・住民・事業者・民間団体）が協力・連携して進めていくことが重要です。
 - いつも、地方行政が主となって「地域づくり」を進めていくとは限りませんし、既存の協力・連携体制は尊重して活かしていきましょう。
- ここで示したプロセスごとに、取り組むうえでの手法、展開の仕方および事例は、それぞれ第3章、第4章、事例集でまとめています。

きっかけ

- 「地域づくり」を進めていくうえで、入口となるテーマを見つけます
 - 地域の課題や特性に着目し、それをもとに地域として取り組むテーマを見つけましょう。
 - テーマは一つでも複数になってもかまいません。

はじめの一步

- 「地域づくり」を進めるにあたって「取組を始める」段階です
 - 「調べる」「考える」「取り組む」のサイクルを繰り返していきます。
 - 取組を進めるにあたっては、複数の主体が協力・連携していくことが大切です。

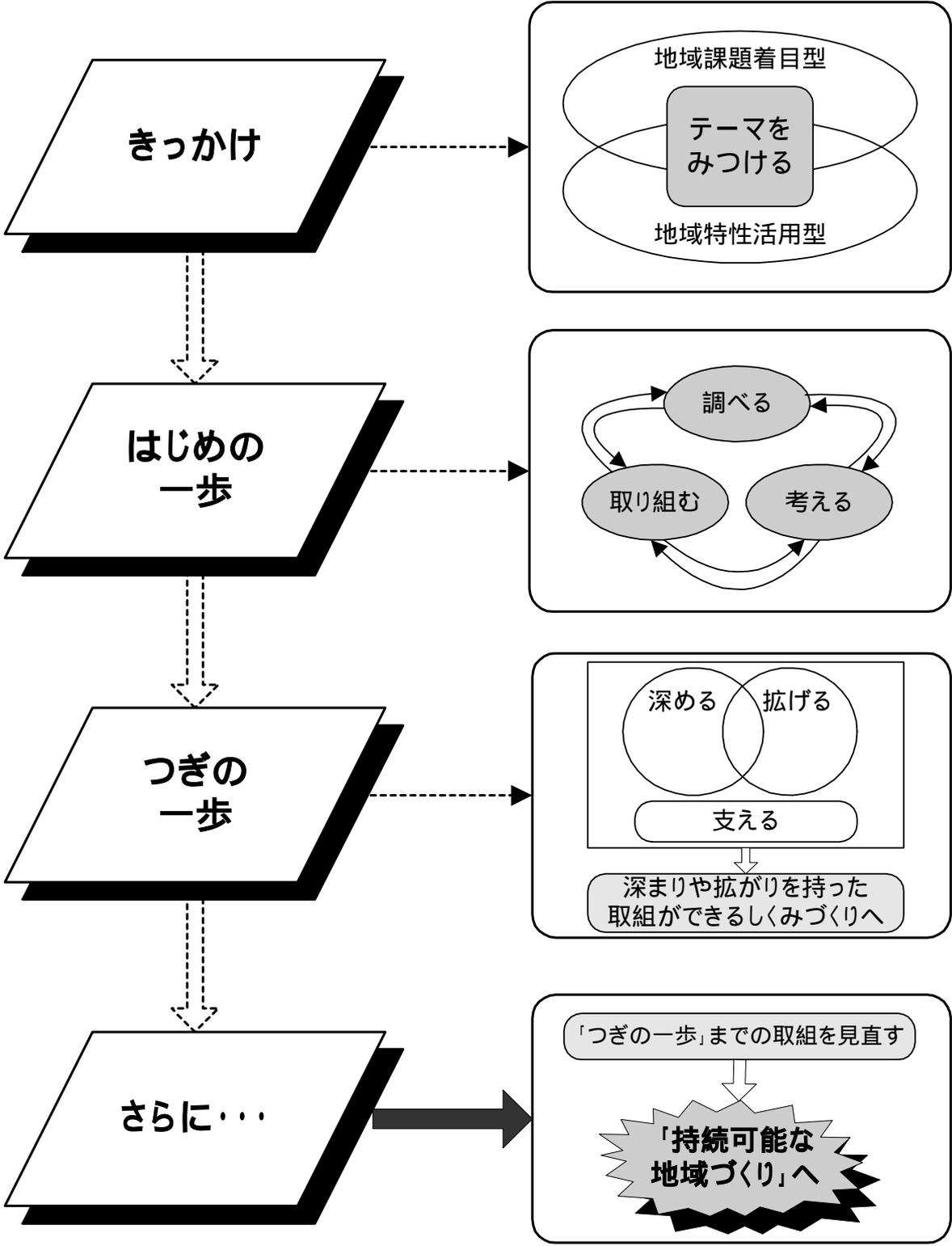
つぎの一步

- 「地域づくり」を継続的なものとするための「しくみづくり」へ
 - 「はじめの一步」のサイクルを、より広く深い取組となるように展開していきましょう。
 - 地域で各主体が協力・連携しながら、継続的な取組となるようなしくみを形成しましょう。

さらに…

- 「持続可能な地域づくり」を目指して
 - 「つぎの一步」までの取組を見直して、さらなる段階へと展開していきましょう。
 - 環境と調和し、持続的に展開・維持し続ける地域づくりを目指しましょう。

「持続可能な地域づくり」のプロセス



(2) それぞれの主体と「持続可能な地域づくり」のかかわり

「持続可能な地域づくり」における主体と役割について定義し、役割とプロセスの二つの要素で考えます。

「持続可能な地域づくり」における三つの主体

「持続可能な地域づくり」において、「地方行政」「住民・事業者」「民間団体」の三つの主体を考えます。

地方行政：地方行政（都道府県や市町村）の担当者と組織

住民・事業者：各住民と事業者

民間団体：住民や事業者の団体

「持続可能な地域づくり」を進めていくうえでは、NPO・NGOなどの民間団体をはじめ、既存の商工会議所や商工会、農協、漁協、森林組合など商工・経済団体も重要な役割を果たしています。

また、各主体は必ずしも明確に切り分けることができるわけではありません。例えば、地方行政の中には交通局や企業局などのように、事業者としての役割を果たしていることもあります。

学識経験者や地域の研究者・教育者が地方行政や、住民・事業者、民間団体に対して大きな支援の役割を果たすこともあります。

このように、実際に各主体は、お互いに足りないところを補い合う関係にあります。

例えば、京都市ではCOP3招致をきっかけに「京のアジェンダ21」が策定され、その推進母体として、「京のアジェンダ21フォーラム」が組織されました。このフォーラムは、はじめは京都市役所が事務局となり、住民・事業者、民間団体が参加し、様々な取り組みを提案・実行し、情報発信を行っています。現在では市役所から民間・事業者へ運営母体に移りつつあります。

この事例では、地方行政は京都市役所、住民・事業者は京都市内外の住民と事業者であり、「京のアジェンダ21フォーラム」が民間団体となります。

「持続可能な地域づくり」における三つの役割

「持続可能な地域づくり」において、様々な役割が考えられます。ここでは、役割を3つに絞って考えています。「推進」「調整」「行動」の3つの側面で、地域づくりの役割を考えてみることにします。

推進：各主体の行動を促し、誘導すること

調整：各主体の取組をうまく組み合わせること

行動：環境負荷低減および環境の創造に直接つながる取組をすすめること

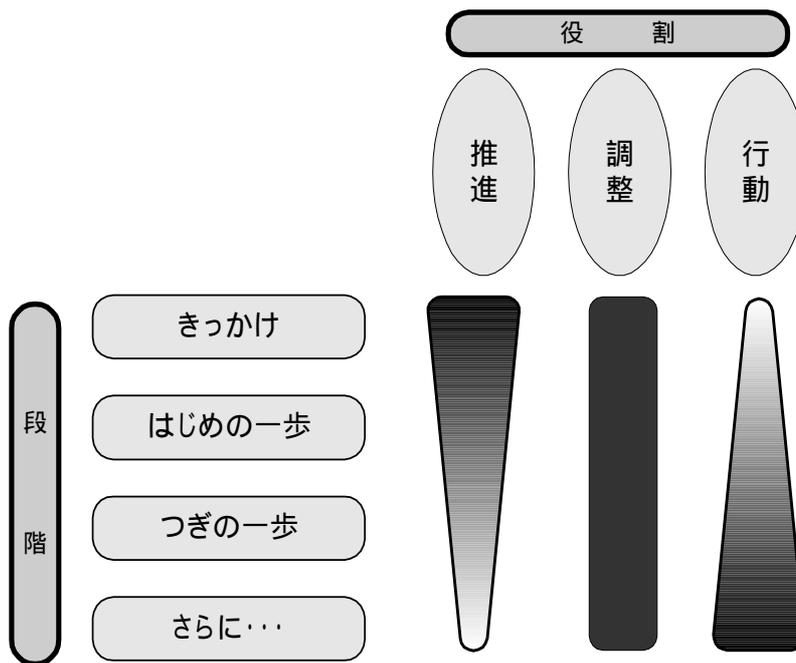
3つ以外の役割は、この3つの組み合わせであると考えます。

例えば、率先行動は、行動することが他の主体の行動を促すことにもつながっているため、「行動」と「推進」の2つの役割を果たしていると考えます。

先に示した京都の例では、「京のアジェンダ21」の策定を通じて、地方行政と住民・事業者など各主体の取組が「調整」されました。また、「京のアジェンダ21フォーラム」が「推進」の役割を果たしています。地方行政、住民・事業者、民間団体はそれぞれの立場で「行動」の役割を果たしています。

プロセスと役割の重要性

「推進」「調整」「行動」の三つの役割の重要性は、先に示したプロセスに応じて変化します。プロセスの初期段階では「推進」の役割が大きく、「調整」の役割はほとんど変わらず、「行動」の重要性はプロセスが進むに連れて大きくなると考えます。



プロセスの各段階における重要度イメージ

各主体の基本的な役割

各主体の基本的な役割は、先ほど示した3つの役割の組み合わせで考えます。3つの主体の役割は、地域によって様々に入り乱れ、これまでは主に行政の役割であった「きっかけづくり」などの役割も民間団体や住民・事業者が果たすこともあります。

基本的な役割

地方行政の役割

地域づくりにおける主たる、「きっかけづくり」「**推進者**」「**取組の調整者**」としての役割
各段階において、地域住民、事業者、民間団体に対して率先行動による**推進**と他の主体の**行動**を促し**調整**を行う役割。

民間団体の役割

地域づくりにおける・きっかけづくり・調整者としての役割
取組の方向への提言や、住民、事業者の代弁者として行政との**調整**を行う役割。
さらに、住民・事業者間の**調整**を行う役割。

住民・事業者の役割

地域づくりにおける主役
日常生活や事業において環境に配慮した**行動**をし、環境保全の取組に参加する
地域づくりにおける主役として**行動**する役割。また、自らの職業の場における環境配慮の提言、実践を行う主体としても重要である。